

研究課題名	医療放射線被ばくに関連した皮膚癌での放射線特異的分子異常の解析
所属（診療科等）	長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシャ医療
研究責任者(職名)	中島 正洋（教授）
共同研究機関	この研究は長崎大学原爆後障害医療研究所および長崎大学病院で実施します。
研究期間	2018年11月20日～2025年3月31日
研究目的と意義	<p>原爆疫学研究では、放射線被ばくによって細胞が障害を受け、数年～数十年後に癌が発症することが知られています（すべての方が癌を発症するわけではありません）。1980年ごろまで、皮膚疾患治療として放射線治療が一般的に施行されていて、照射した部位に限局して極めて希に皮膚癌が発症することがあります。しかし、放射線被ばく後に細胞の中でどのような変化が起きて発がんするのか、詳細なメカニズムは分かっていません。</p> <p>本研究では、放射線被ばく後に発がんに関与する放射線特異的な分子メカニズムを解明することが目的です。本研究によって、被ばく後の発がんリスク評価が可能になります。</p>
研究内容	<p>●対象となる患者さん 医療放射線に被ばく後、皮膚癌を発症した患者さんで1980年1月1日から、2024年3月31日の間に、皮膚癌の治療（生検および手術）を受けられた方を対象とします。</p> <p>なお、被ばく関連皮膚癌の対照（コントロール群）として、医療放射線被ばく歴（通常の診療に使用する数回のX線検査やCT検査は除きます）がなく、皮膚癌と診断され、組織生検あるいは手術を受けられる方を対象とします。</p> <p>●利用する情報／試料 情報：性別、年齢、医療放射線被曝歴の有無（有りの場合、被曝日、線種、線量）、病理診断名、病期分類（TMN分類） 試料：生検および手術で採取された凍結組織検体および病理標本（すべて病理診断に影響がない残余検体）</p> <p>本研究で利用する情報について詳細をお知りになりたい場合は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。</p>

	<p>●研究方法</p> <p>上記の情報/試料を用いて、被ばく後発がん関与した遺伝子変化（遺伝子発現変化やサイレント変異、ミスセンス変異、フレームシフト突然変異などのゲノム医異常）を網羅的に解析します。さらにDNA 損傷応答・修復関連分子およびがん関連分子（ATM、H2AX、53BP1、DNAPKcs、XRCC4、RAD51、Ku70/80、p53、Ki-67、p16、p21）の発現を解析します。</p> <p>遺伝子の網羅的解析により、当初は想定していなかった試料提供者および血縁者の生命に重大な影響を与える偶発的所見が発見された場合は、個人情報保護に関する法律及びその他の法令ならびにヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針に基づいて対応を行います。病気のことや遺伝子解析に関して、相談したいことがある場合は、下記相談窓口へご相談下さい。研究についてより詳しい説明を行うと共に、ご希望に応じて遺伝カウンセリングが受けられるよう、長崎大学病院では遺伝カウンセリング室を設けています。</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>【研究担当者】</p> <p>氏名：松田 勝也（助教） 長崎大学原爆後障害医療研究所 原爆・ヒバクシヤ医療</p> <p>住所：長崎市坂本1丁目12番4号</p> <p>電話：095（819）7107 FAX 095（819）7108</p> <p>【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）</p> <p>苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616</p> <p>受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）</p>